

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

「アルツハイマー病先制治療薬開発を目指して」

—ASIM プロジェクト update

治療薬探索研究部

河合 昭好 部長

平成27年7月9日(木) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

人口の高齢化に伴い、認知症患者は増加の一途を辿り、大きな社会問題となっている。中でも患者数の最も多いアルツハイマー病には根治薬が存在せず一日も早い開発が望まれている。これまで製薬会社を始め多くの研究者がその開発に多大の努力を傾けてきたにもかかわらず、未だ有用性が認められた薬剤はなく、有望視された薬剤が相次いで臨床試験で脱落しているのが現状である。そのような中で NCGG には他機関では実現できない画期的な創薬が期待されており、それを可能にする人材、設備、加えて公的支援策が整いつつある。本報告会では出口を見据えたアカデミア創薬の1例として、約2年間取り組んで来た ASIM (Anti-Seed Internal Medicine) プロジェクトの進捗を簡単に報告したい。

ASIM プロジェクトのスタートラインはバーチャルスクリーニングであり、バーチャルスクリーニングで絞り込まれた化合物をウェットスクリーニングで評価するという効率的な方法によりいくつかのヒット化合物を見出した。その後、ヒット化合物のプロファイリングと問題点にフォーカスした最適化により、リード化合物を同定することができた。現在は更なるリード化合物の最適化を進めており、早期の臨床候補品獲得を目指している。ASIM プロジェクトのこれまでの流れと現状、そして今後の方針についても触れたい。